第３章　計画の基本理念、基本目標

１　基本理念

「足立区子ども・子育て支援事業計画」では、教育大綱で掲げられた『夢や希望を信じて生き抜く人づくり』を基本理念とします。この基本理念には、迷いや困難に直面してもそれを乗り越え、自ら信じる夢や希望に向かっていけるたくましさを持って生きて欲しいという思いが込められています。

“これからを生き、将来、社会の担い手となる子どもたちをどのように育てあげるか”とりわけ、乳幼児期は、心情、意欲、態度、基本的生活習慣等、生涯にわたる人間形成の基礎が培われる重要な時期です。この時期に、身近な大人たちからの深い愛情、様々な出会い、かかわりあいを通じて、子どもたちの自己肯定感を培い、生き抜く力を育みます。

［ 基本理念 ］

夢や希望を信じて生き抜く人づくり

（＝ 足立区教育大綱の基本理念）

２　計画の体系

（１）体系の構成

本計画で掲げた『夢や希望を信じて生き抜く人づくり』という目指すべき姿が実現されるには、まず、日々のくらしの主役であり、まちづくりの担い手でもある「ひと」がいて、その人々が営む日々の「くらし」があり、そのくらしが展開される舞台となる「まち」があります。さらに、「ひと」「くらし」「まち」を支える「行財政」が必要となります。

「足立区子ども・子育て支援事業計画」では、この「ひと」「くらし」「まち」「行財政」の４つの視点を踏まえて、区が実施する施策を『１　家庭・地域と連携し、子どもの学びを支え育む』、『２　妊娠から出産・子育てまで切れ目なく支える』の２つの施策群に分類し、この２つの施策群にそれぞれ４つの施策を体系付けています。

そして、足立区基本計画の柱立ての一つである『自己肯定感を持ち、生き抜く力を備えた人』のもと、これら８つの施策に取り組むことで、『夢や希望を信じて生き抜く人づくり』という基本理念の実現を目指してきました。

施策群評価や事業評価を通じて、引き続き各施策を重点的に進めていく必要があることから、第２期子ども・子育て支援事業計画においても、基本理念、柱立て、施策群、施策を第１期計画より継承し、取り組みを展開していきます。

■　足立区子ども・子育て支援事業計画の施策体系

基本理念：夢や希望を信じて生き抜く人づくり（＝足立区教育大綱の基本理念）

“これからを生き、将来、社会の担い手となる子どもたちをどのように育てあげるか” とりわけ、乳幼児期は、心情、意欲、態度、基本的生活習慣等、生涯にわたる人間形成の基礎が培われる重要な時期です。この時期に、身近な大人たちからの深い愛情、様々な出会い、かかわりあいを通じて、子どもたちの自己肯定感を培い、生き抜く力を育みます。

4つの視点

【ひと】	【くらし】	【まち】	【行財政】
自己肯定感をもち、未来を切り開くたくましい【子ども】を育む。	社会や地域が親育ちと子育てを支援し、子育て家庭が子どもの成長に喜びや生きがいを感じることができる【くらし】を実現する。	次代を担う子どもが心身ともに健やかに育ち、誰もが安心して子どもを産み育てることができる【まち】を築く。	子育て家庭の多様なニーズに応じた支援策の質・量の充実を図る。

子ども・子育て支援事業計画の施策体系

柱立て	自己肯定感を持ち、生き抜く力を備えた人	
施策群	1　家庭・地域と連携し、子どもの学びを支え育む	2　妊娠から出産・子育てまで切れ目なく支える
施策	1-1　子どもの心身の健全な発達の支援 1-2　就学前からの学びの基礎づくり 1-3　特別な支援を要する子どもの状況に応じた支援の充実 1-4　子どもが社会と関わる力を育むための成長支援	2-1　妊娠、出産、子育てへの切れ目のない支援の充実 2-2　子育てと仕事の両立支援 2-3　困難を抱える子育て家庭への支援と虐待の防止 2-4　安全・安心に子育てのできる生活環境の整備
	子支援	親支援
各施策参照ページ	P41　P45　P48　P51	P53　P56　P60　P63

（２）施策群

施策群１　家庭・地域と連携し、子どもの学びを支え育む　〈子支援〉

●次代を担う子どもたちが、社会の一員として自立するため、心身ともに健やかに成長し、自ら学び考え行動する力や、社会の発展に主体的に貢献する力を身に付けていけるよう支援します。

●障がいのある児童等、配慮が必要な子どもやその保護者を対象に、関係機関等が連携を図りながら、子どもの特性に合わせた継続的な支援を充実させます。

●家庭や地域と連携しながら、すべての子どもの健やかな成長と学び、自立に向けた支援に取り組みます。

施策群２　妊娠から出産・子育てまで切れ目なく支える　〈親支援〉

●安心して子育てをするため、教育・保育施設を利用する子どもの家庭のみならず、在宅の子育て家庭を含むすべての子ども及び子育て家庭を対象として、妊娠・出産期からの切れ目のない支援を行います。

●子育てに不安や悩みを抱えた保護者や子育て家庭が、孤立することがないよう、家庭環境等の変化により多様化する相談に応え、妊産婦とその家族の出産・子育ての不安が軽減され、家族が健やかに生活できるよう取り組みを進めます。

●安心して仕事と子育てを両立するための環境づくりや、子育てしやすい環境づくりを推進し、さまざまな子育て不安や負担感の軽減をはじめ、安心して外出できるまちづくりや子どもの遊び場の整備など、引き続き、安全安心に子どもを生み育てられる環境づくりに努めます。

（３）施策展開の横断的な視点

第２期子ども・子育て支援事業計画では、第１期計画の振り返りのため実施した施策群評価（P25 から 27 参照）の結果として、基本理念の実現のために、以下の２点を新たに施策展開の横断的な視点として加えました。

視点１　子育て支援の質の向上

評価結果

●体験や交流活動、生活習慣の確立など、これまでの取り組みの成果や課題を踏まえて、子育て支援の「質の向上」を目指していくことが重要。

視　点

●区民が安心して子育てに関するサービスを利用できる環境を整備するため、関連事業を磨き、適切なサービス供給量を確保するとともに、「質の向上」を図る。

視点２　ライフステージ間のつなぎの強化

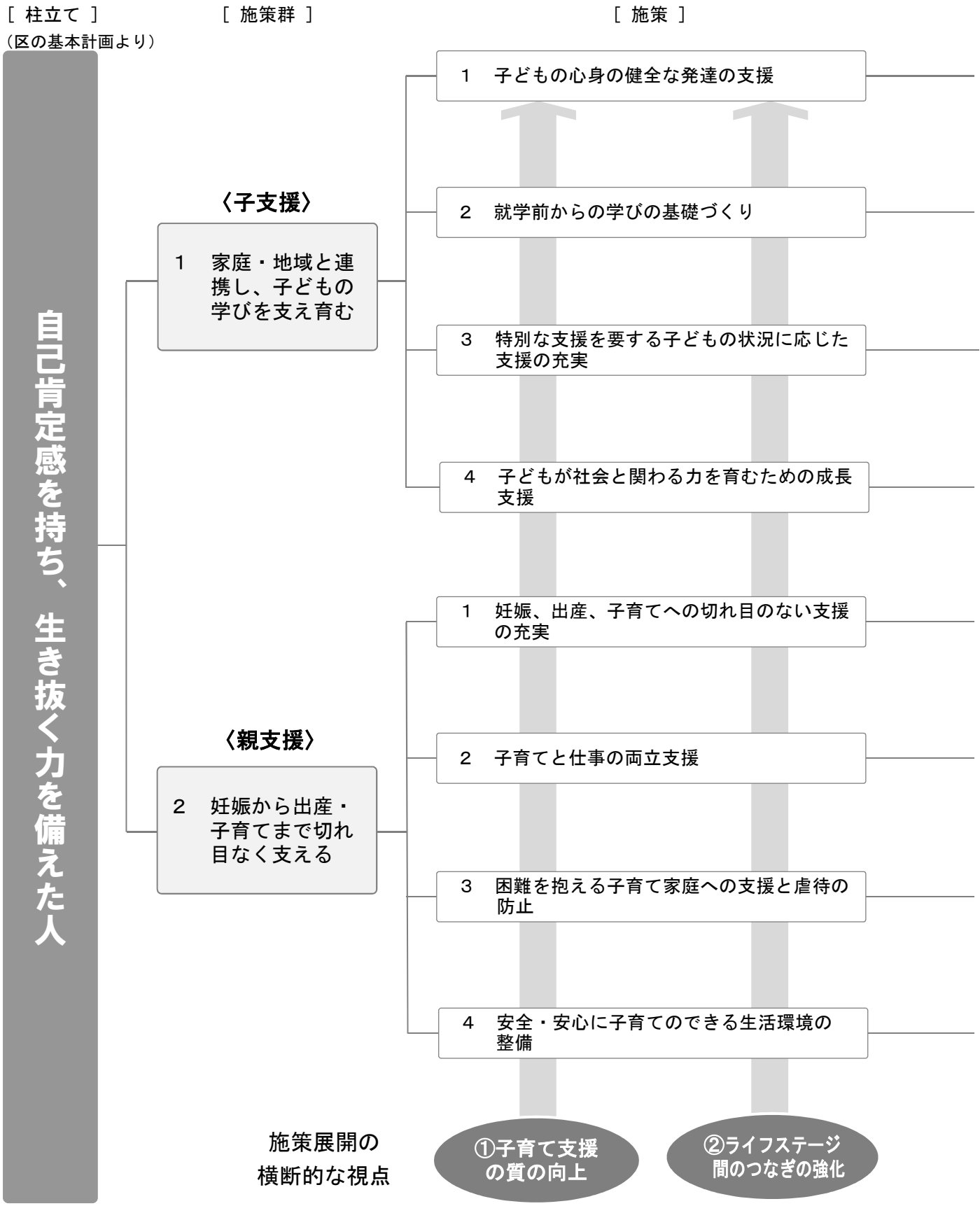
評価結果

●支援が途切れないように、就学前・後施設や就学前施設同士の連携の強化に加えて、乳児期から幼児期、幼児期から就学前接続期など、次のライフステージへ「つなぐ」取り組みが必要。

視　点

●ライフステージに沿った関係機関の連携を強化し、子どものライフステージ間のつなぎがスムーズに行われるよう、仕組みづくりを進める。

3　施策の体系図


［ 柱立て ］
（区の基本計画より）
［ 施策群 ］
［ 施策 ］
自己肯定感を持ち、生き抜く力を備えた人
〈子支援〉
1　家庭・地域と連携し、子どもの学びを支え育む
1　子どもの心身の健全な発達の支援
2　就学前からの学びの基礎づくり
3　特別な支援を要する子どもの状況に応じた支援の充実
4　子どもが社会と関わる力を育むための成長支援
〈親支援〉
2　妊娠から出産・子育てまで切れ目なく支える
1　妊娠、出産、子育てへの切れ目のない支援の充実
2　子育てと仕事の両立支援
3　困難を抱える子育て家庭への支援と虐待の防止
4　安全・安心に子育てのできる生活環境の整備
施策展開の横断的な視点
①子育て支援の質の向上
②ライフステージ間のつなぎの強化

［ 施策の方向性 ］

食育や歯科健診の取り組み、読書習慣、運動遊びなど、子どもの心と体の基盤となる生活習慣づくりを推進します。

乳幼児期の教育・保育内容の質の向上により、小学校教育へつながる子どもたちの学びの基礎づくりを推進します。

発達障がいなど様々な悩みや課題を抱える子どもたちが、それぞれの特性に応じた支援が受けられるように、支援体制を充実します。

家庭や地域と連携しながら、様々な学び、体験の場を広げ、子どもたちが自らの可能性を見つけ、伸ばしていけるよう支援します。

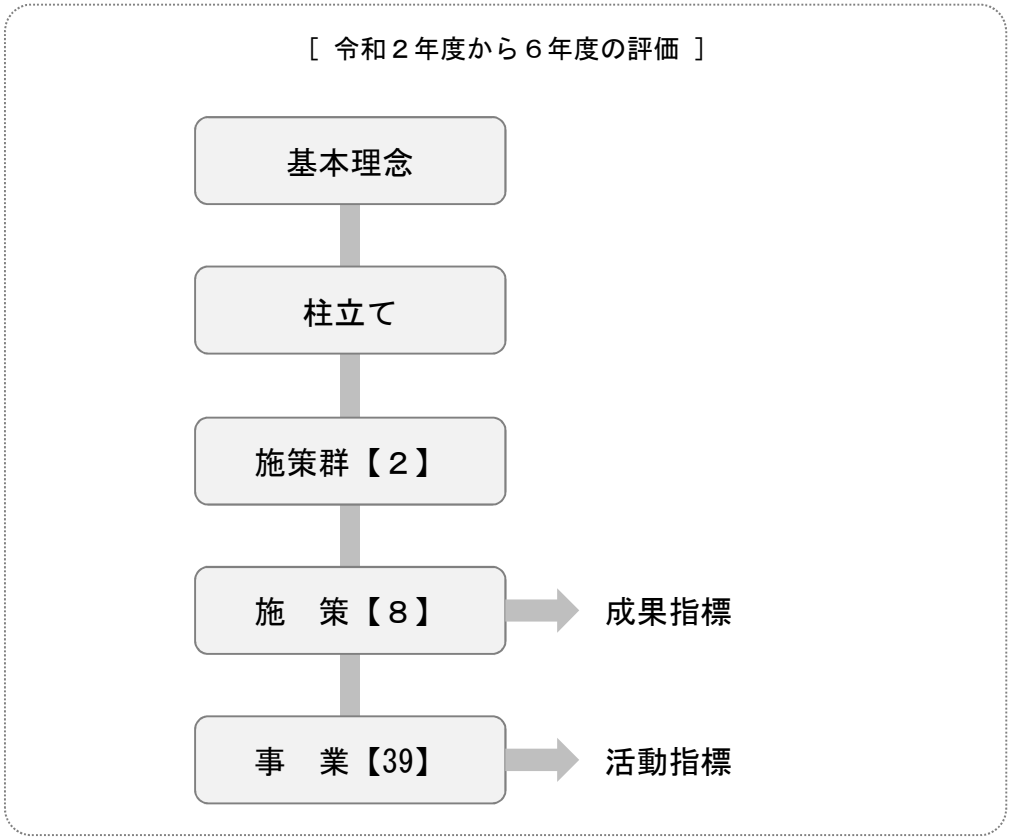
・子育て支援を充実し、安心して妊娠、出産、子育てができるよう、切れ目ない支援を行います。
・子育てサービスを適切・円滑に利用できるよう、親子の居場所や交流の場などの情報提供や、悩みの相談環境の充実を図ります。

多様な働き方を背景とした保護者の保育ニーズに応じた教育・保育サービスを確保します。

・児童虐待の発生予防、早期発見、早期対応等を図るため、地域におけるきめ細やかな体制の充実を進めます。
・困難を抱える子育て家庭の悩みや相談に応じ、経済的支援をはじめ、親と子どもに寄り添った様々な支援を行います。

妊産婦、子育て家庭等、全ての人たちが安全安心に外出できるよう、ユニバーサルデザインの視点に立ったまちづくりを推進していきます。

４　計画の評価・指標について

足立区では、前出の施策体系に基づき、関連する各事業を推進することで、基本理念の実現を目指していきます。また、各事業の達成状況を測るため、前回の計画では、２つの施策群にのみ成果指標を設定していましたが、第２期子ども・子育て支援事業計画においては、各施策群に連なる８つの施策に成果指標を、施策に連なる事業に活動指標をそれぞれ設定することで、施策や事業の進捗を可視化し、スピード感をもって計画の実現にあたっていきます。

施策体系と評価指標の関係図